

『新型タバコの危険な真実!?』



世界的に禁煙の流れが高まる中、日本では「煙が出ない」「健康リスクが少ない」などと誤認され、新型タバコが急速な広がりをみせています。しかし、流行の口火を切った米国タバコ会社の「IQOS」が、地元アメリカでは有害性を指摘され、なかなか販売許可が下りなかったことをご存知でしょうか？（日本では2014年発売開始でしたが、アメリカでは2019年にやっと販売許可が下りました）見えない煙に巻かれて自分と周囲の健康を害してしまわないよう、新型タバコの実態を正しく知ってください。



新型タバコとは何ですか？

従来の紙巻タバコは燃焼式タバコと呼ばれ、新型タバコは「電子タバコ」と「加熱式タバコ」の2種類に大別されます。

「電子タバコ」は液体（リキッド：ニコチンを含むもの、あるいは含まないもの）を加熱して発生させた目に見えない煙を吸入するもので、日本では法規制により、ニコチンの含まれるリキッドは取引が禁止されています。

「加熱式タバコ」はたばこの葉を電気で加熱し、発生した蒸気を吸引するタバコで、下表の製品などが該当します。日本ではこの「加熱式タバコ」が広がっています。



【加熱式タバコ】

製品名	アイコス (IQOS)	グロー (glo)	プルームテック (PloomTECH)
メーカー	フィリップモリス	ブリティッシュ・アメリカン・タバコ	日本たばこ産業
基本構造	葉タバコを直接加熱し、ニコチンを含むエアロゾルを吸引（ニコチンの沸点は247度）		低温で霧化する有機溶剤からエアロゾルを発生させた後、タバコ粉末を通過させ、タバコ成分を吸引
販売時期	2014年11月：名古屋市で販売 2016年4月：全国で販売 2017年3月までに300万代販売	2016年12月：仙台市で販売 2017年10月：全国で販売	2016年3月：福岡市で販売 2017年7月：東京、大阪等で販売 2018年6月：全国で販売
本体			

東京法規出版「職場の女性のたばこ（喫煙）対策」より

従来の燃焼式タバコより健康被害が少ない？⇒ ❌

加熱式タバコの煙は見えませんが、吸うときに発生する蒸気は、ニコチン等を含んだミスト状のエアロゾルで、その中に有害物質が含まれています。特にニコチンの量は従来のタバコとほとんど変わらず、有害性（健康被害）は依然として非常に高いといえます。

煙が出ない、あるいは煙が見えにくいので

禁煙のエリアでも吸える？ ⇒ ❌

受動喫煙の危険がない？ ⇒ ❌

周囲にいる人には煙が見えにくく、臭いもわずかなので、避けることが困難です。すなわち、病気がある人や子供たち等も、このタバコの影響を避けることが難しくなります。

